

文教常任委員会行政視察（概要）

1 視察日

令和元年5月16日（木）～17日（金）

2 視察項目（視察都市）

- ・中高一貫教育について（三重県松阪市）
- ・学校給食センター及び学校給食の運営について（三重県志摩市）

3 参加委員

委員長：福丸 孝之、副委員長：長谷川 浩

委員：大嶺さやか、萩原 佳、青木 順子、松本 泰典

4 調査概要

松阪市では、平成11年に全国で初めて設置者が異なる市立中学校、県立高等学校での連携型中高一貫教育を導入している。6年間の計画的・継続的な教育指導や幅広い年齢層の交流の中で、生徒の個性や創造性を伸ばし、社会性や豊かな人間性を育むことができるなど、中高一貫教育ならではの教育活動を実施している。また、特色ある取り組みとして「郷土学習」を実施している。この学習は地域社会に貢献できる人材を育てることを目的としており、道の駅での販売実習などを通じて、自己の生き方、在り方を探求させ、望ましい職業観を養い、目的意識や進路選択能力を育成する取り組みであり、高校3年時には、プレゼンテーションによる研究成果の発表会を行っている。

志摩市では、学校給食センターを一本化し、給食を統一献立の調理とすることで、公平にバランスのとれた給食を提供している。また、子どもの望ましい食習慣の形成や食に関する理解促進を目的に、毎月1回「志摩産給食の日」を設け、生産者交流会や、志摩の特産品の魚や海藻類等を使った献立とするなど、学校給食が「生きた教材」として活用され、志摩の「食」や生産者との交流を通じ、地域の魅力に気づいてもらうことを目的とした食育推進事業を積極的に行っている。



5 委員長所感

松阪市の飯南地区では、中高一貫教育の中の郷土学習という教育課程を通じて、自分自身をしっかりと見つめ、自分は何に興味があって何をしたいのかを明確に理解することができていた。自分を見つめた6年間で過ごすことができる教育は、子ども達にとっても良い学びを与えていると考える。

志摩市では、志摩産給食の日を月1回実施されており、生産者との交流会も設けるなど、地域ぐるみで取り組んでいる姿勢は、とても評価できるものである。地場産献立の実施や生産者との交流などは、子どもに対する教育効果や、生産者に対しても、地場産の活性化につながることであるので、本市においても積極的に取り組んではどうかと考える。